

素材と加工技術で “世界のものづくり”に挑む

富士ダイス(株)
代表取締役社長

西嶋 守男氏(64歳)に聞く



▷ 事業概要を教えてください

当社は1949年に創業して以来、超硬合金製を中心とした耐摩耗工具・金型の製造販売を手掛けています。その事業の基盤となる、粉末冶金技術と高精度・超精密の加工技術が強みです。

事業は「超硬製工具類」、「超硬製金型類」、「その他の超硬製品」、「その他超硬以外」の製品に分類しており、それぞれの販売高はほぼ均等と言っているでしょう。具体的な製品を紹介すると、超硬製工具類ではダイスやプラグ、溝付きプラグ、熱間圧延ロール、超高圧発生用工具など、超硬製金型類では、自動車部品製造・製缶・電池関連用などの金型を取り扱っています。そのほかの超硬製品では超硬合金素材や、半導体描画装置などに用いられるガイドレールなどを製造しています。また、超硬以外では鋼製品、セラミックス製品、ダイヤモンド研削砥石、タングステン基合金、放電用電極、NFメタル(固体潤滑複合材料)などを製造しています。

取引企業は約3000社で、自動車などの輸送機械をはじめ、鉄鋼、非鉄金属・金属製品、生産・業務用機械、金型・工具向け素材、電機・電子部品など、多岐に亘り当社製品が使用されています。中でも比率が大きいのは輸送機械で、6割程度を占めます。自動車

業界では生産が海外にシフトしていますが、精度の高い形状の複雑な部品というのは、国内に残るのではないかと思います。当社ではそういった要求レベルの高い製品への対応に注力していきたいと考えています。

▷ 今後の事業展開についてお聞かせ下さい

一つは新しい分野への挑戦です。長年培った粉末冶金技術と加工技術を駆使して、新しい領域へ打って出ようとしています。たとえば、各種触媒の代替製品の開発や、医療機器や航空機関連の製品づくりにも取り組んでいます。

もう一つは工場の集約ですね。国内では、生産拠点が8ヵ所、営業拠点が17ヵ所あり、また海外では中国(上海)、タイ、インドネシア、マレーシア、インドに営業拠点を設置し、その内、タイとインドネシアでは生産拠点も持っています。当社は創業時から、顧客に近いところでものづくりをし対応するという考えで、全国をカバーする国内生産と直販体制を敷いています。しかし、近年では物流も発達していることから、納期の短縮と生産の合理化などを考え、国内生産拠点の集約を進めています。最近では、本年12月の操業を目指し熊本製造所を増設します。ここでは、自動車向けなどの複雑形状の

超硬合金製工具・金型を集約する予定です。

▷ 新社長として抱負をお願いします

当社は、特に耐摩耗工具では国内トップシェアを持っています。そこで中期計画のビジョンとして「世界のものづくりのリーディングカンパニー」を掲げ、材料・加工技術を活用したグローバル市場開拓を進めていきます。

また、昨年10月に社長に就任してから、全国の事業所とタイ・インドネシアの製造拠点を回って、就任の挨拶をしてきました。その場で、従来の生産環境などをより良くする“改善”ではなく、これまでと違う視点で仕事を捉える“革新”をテーマとしてほしいと話しました。これがあって、各事業所が共通の意識を持ってくれるようになりました。

また経営面では、昨年東証2部に上場しました。株主にアピールできる当社の企業価値は、設計から原粉粉末の調整、焼結、機械加工、製品検査まで一貫した体制と、創業以来の無赤字経営で、安定性の高い経営だと説明しています。今後も、当社の取り扱う超硬合金のように、手堅い経営を進めていきたいですね。